

住吉踊

すみよし おどり



住吉踊とは

民俗芸能。大阪市住吉区の住吉大社に伝承される踊りで、古くは住吉大社の神宮寺、新羅寺の社僧が御田植祭に踊ったあと、住吉代参の祈禱の目的で京阪を巡回して踊ったものだという。白木綿の衣装に手甲、股引、脚絆といった旅仕度の者4～5人が円陣をつくり、音頭取りが大傘を立てて〈住吉様の岸の姫松目出たさよ〉などと傘の柄をたたきながら歌うのにつれて、うちわを打ちふり足をはねあげて踊る。茜（あかね）染の布をめぐらした菅笠（すげがさ）や茜木綿の前垂れなどにも特徴がある。



住吉踊は住吉に伝来する民俗芸能で、住吉大社の祭礼などで披露される。

住吉踊の起源について（伝承）

神功皇后が遠征から海路を帰還し、
船団が堺の七道の浜辺に上陸した時、
ちょうど新嘗祭（収穫の感謝祭）であったため
住民がともに踊ってお祝いしたという。

この踊りは吉志舞（きしまい）といい、安倍氏
がつかさどり、難波吉志の一族によって代々伝
承され、吉志部の楽とも称した。

宮廷の儀式楽として伝承されたが、中世に廃絶。

堺市博物館 『住吉祭礼図屏風』 左隻より



住吉祭礼図には住吉社頭において住吉踊に興じる人々を生き生きと描いている。

『花洛細見図』 元禄17年（1704）序



『花洛細見図』 元禄17年（1704）序

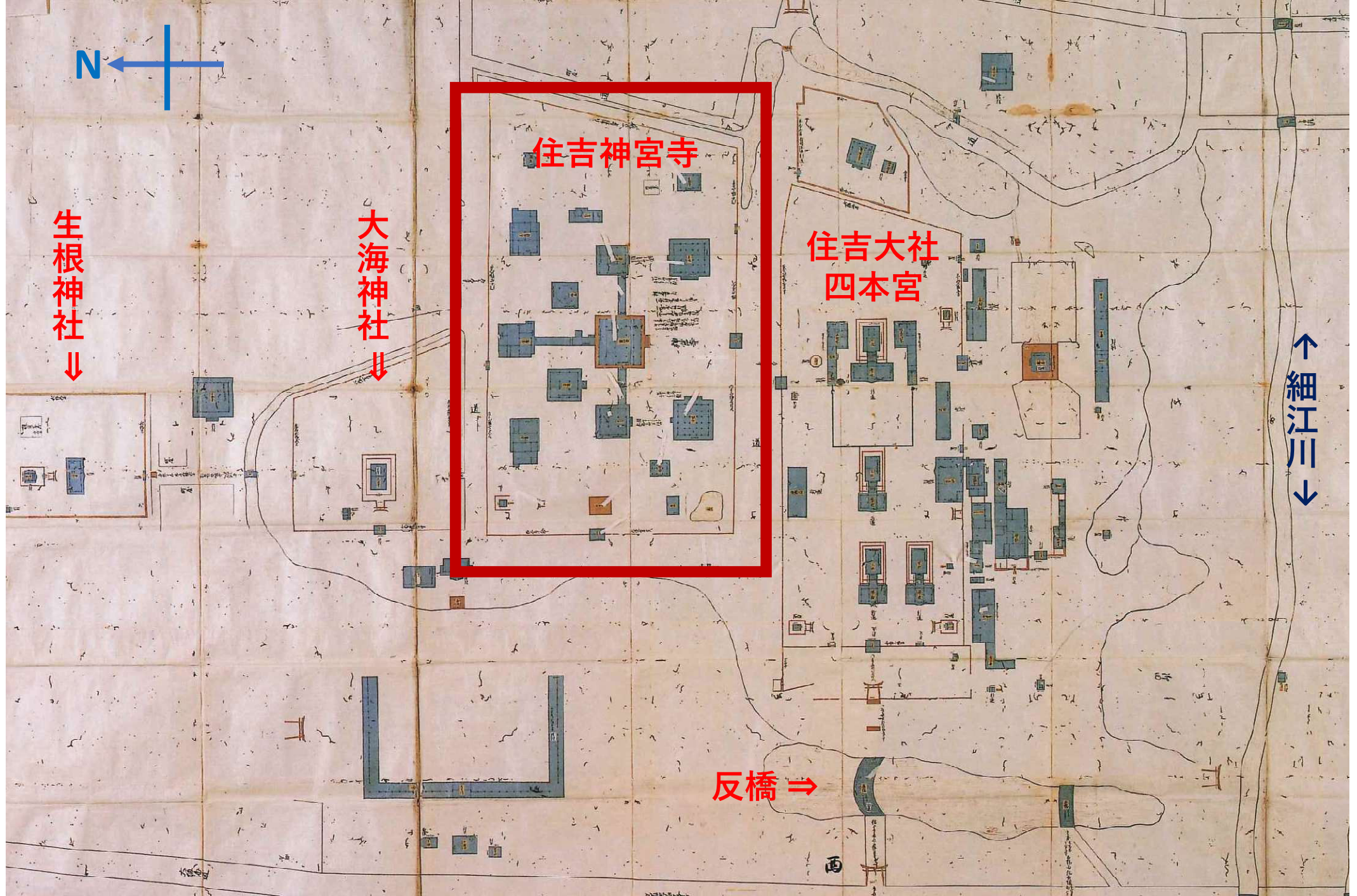
住吉踊

堺住吉の祭、御田植の神事において、神社にある神宮寺の若い僧たちが、それぞれ田を植える早乙女の衣装を真似ておめでたい内容の歌をうたって踊る。毎年七十件あまりの祭礼があるが、そのなかで踊られている。



住吉神宮寺 すみよし じんぐうじ

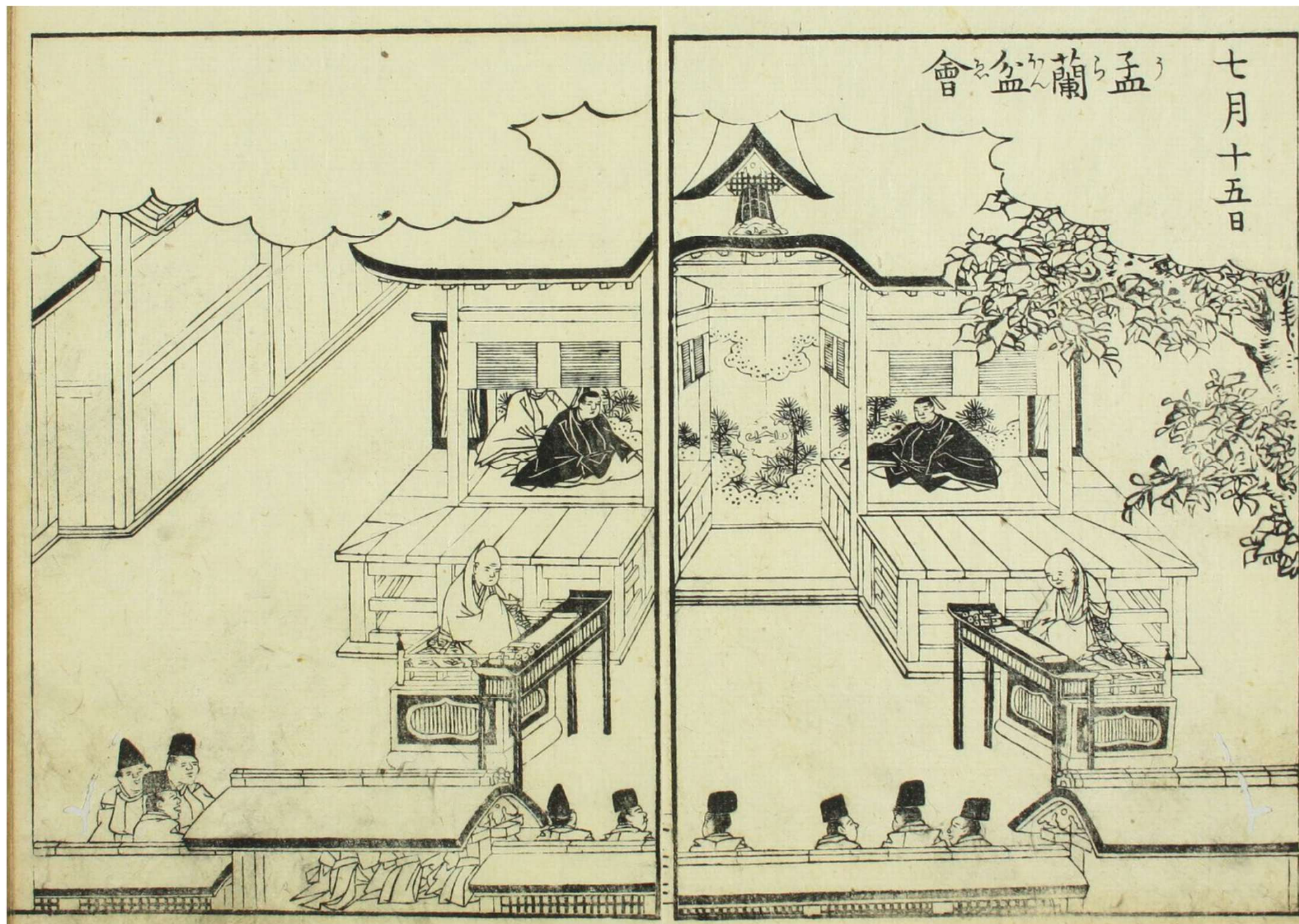




現存最古の住吉大社境内図面

『摂津国住吉社絵図』承応2年（1653）

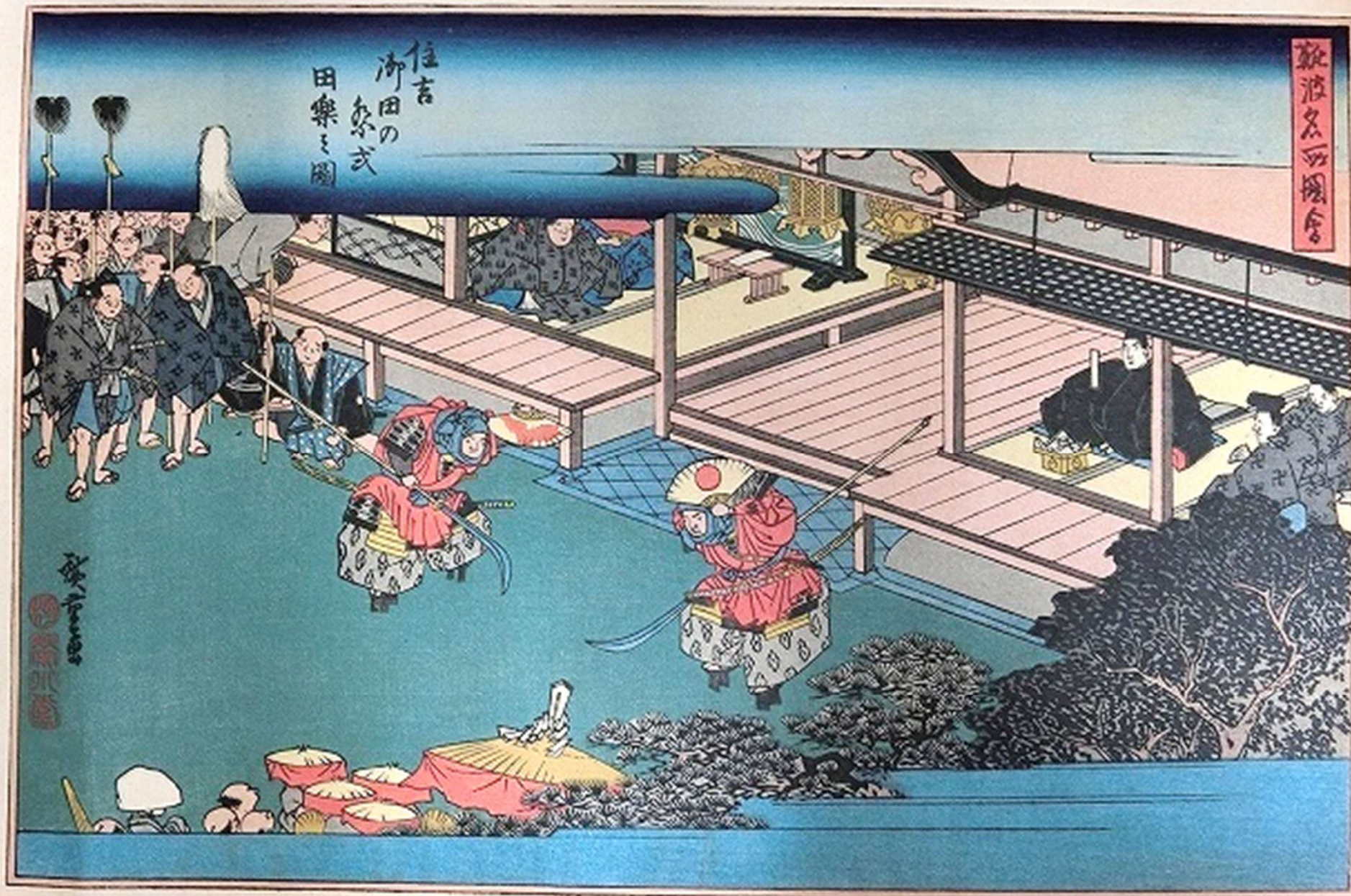
京都府立総合資料館所蔵 中井家文書より

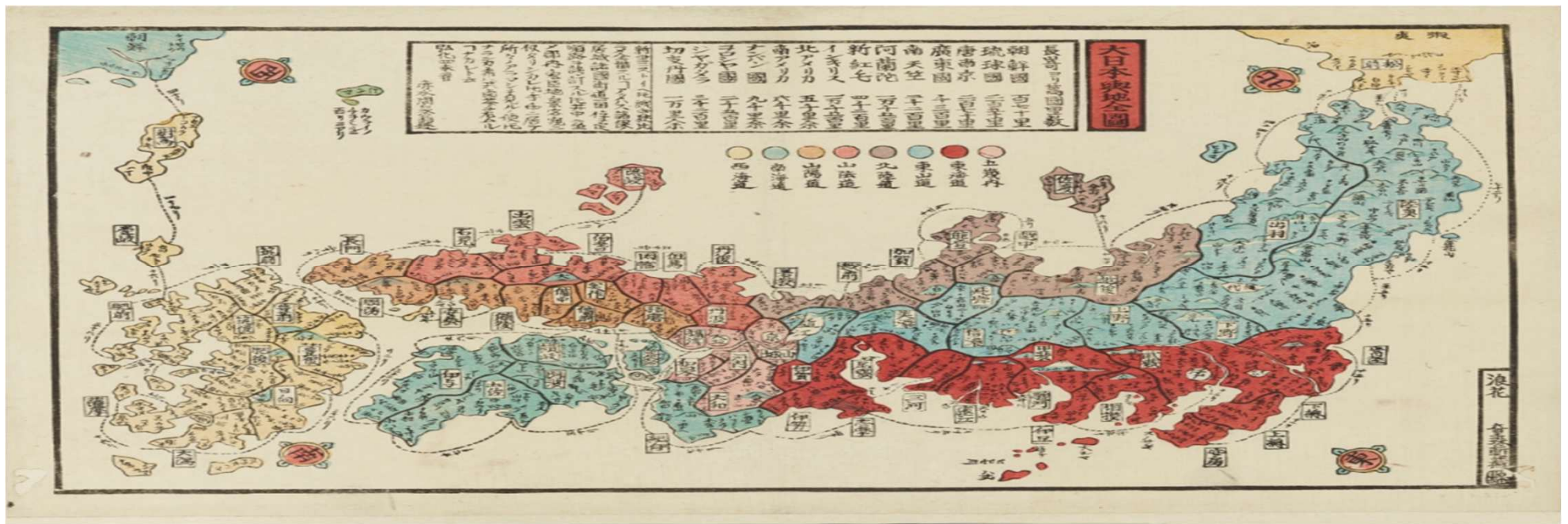


神社と寺院の共存関係 神前で仏教行事をおこなう神宮寺の社僧

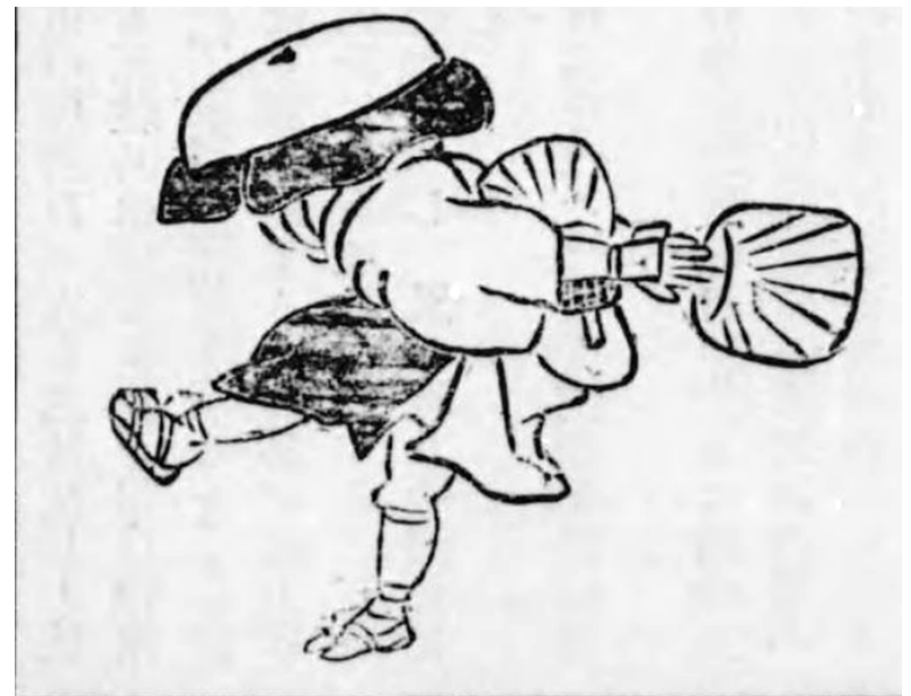
『住吉名勝図会』 孟蘭盆会

『難波名所図会』より「住吉御田の祭式 田楽之図」 歌川広重筆



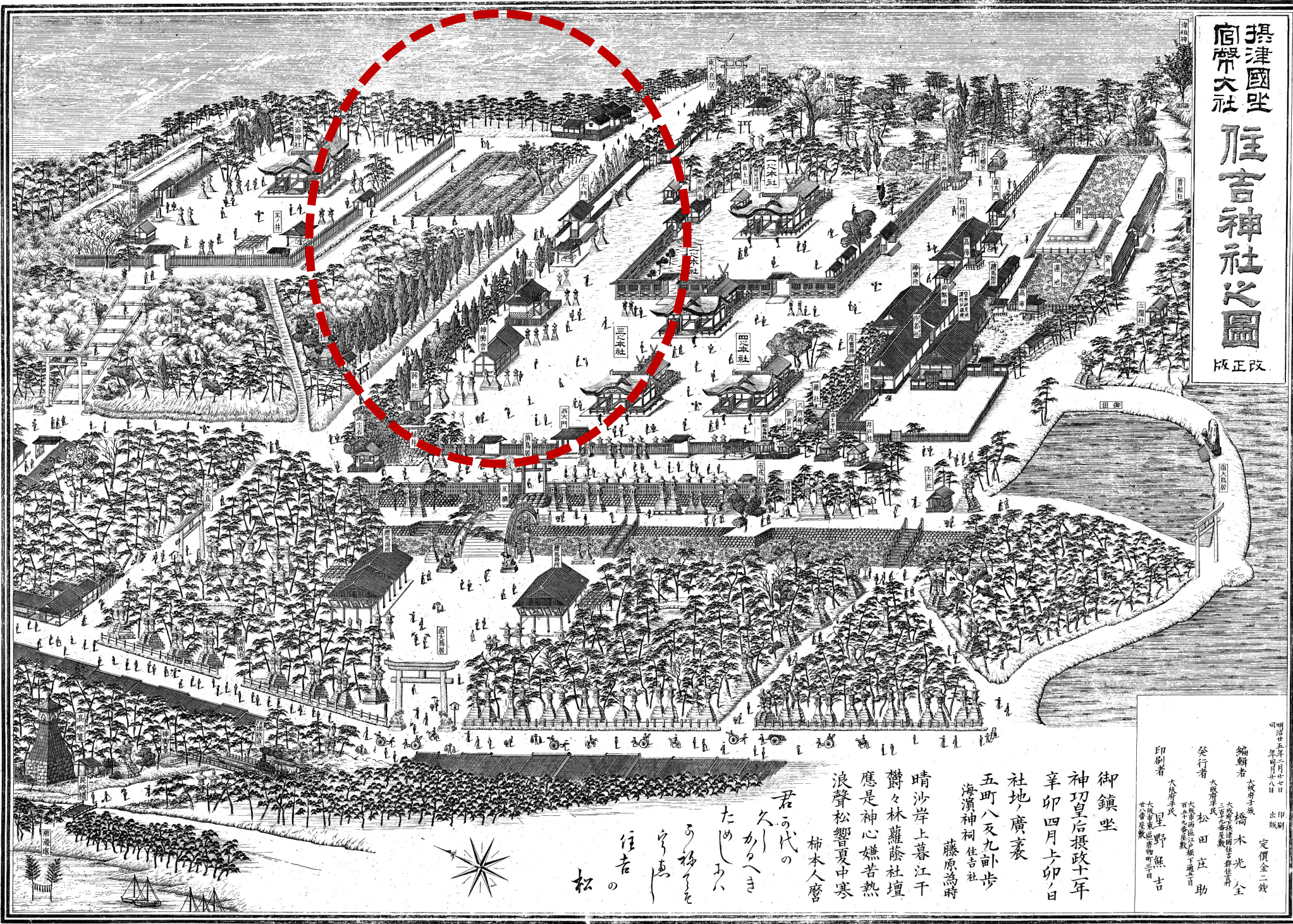


『人倫訓蒙図彙』 元禄3年（1690）



『守貞漫稿』 嘉永6年（1853）

攝津國坐官幣大社 住吉神社之圖
版正改



明治廿五年一月廿七日 印刷
 編輯者 橋本光全
 大坂府住吉區住吉
 發行所 松田庄助
 大坂府住吉區下道
 印刷者 星野熊吉
 大坂府住吉區
 定價金二錢

御鎮坐
 神功皇后摂政十年
 辛卯四月廿卯日
 社地廣袤
 五町八反九畝步
 海濱神祠住吉社
 藤原為時
 晴沙岸上暮江干
 鬱々林蘿蔭社壇
 應是神心嫌苦熱
 浪聲松響夏中寒
 柿本人麿
 君の代の
 久かへき
 ためし
 ちかき
 住吉の
 松

明治25年（1892）発行 『摂津国坐官幣大社 住吉神社之図』

●与謝野晶子「私の生ひ立ち」

四 夏祭

お正月の済んでしまつた頃から、私等はもう
お祓（※おはらひ＝住吉祭）が幾月と幾日す
れば来ると云ふことを、数へるのを忘れませ
んでした。

．．．（略）．．．

朝御飯を食べますともう**住吉踊**が来ます。

「すみようしさんまいの」

と拍子ごとに云ふ踊で、姿は白衣に腰衣を穿
いた**所化**（※しょけ＝僧侶）を装つて居るの
です。踊手は三人程で、音頭とりが長い傘を
さして真中に立ち、その傘の柄を木で叩くの
が拍子なのです。



伊勢神宮参拝団

大阪楽正会



浪華名物住吉踊復興由来

そもく浪華名物住吉踊は、そのかみ、神功皇后三韓凱旋の砌泉州七道ヶ浜（今の大和川南岸の地）に御上陸ありし時、適々大嘗会に会せしを以て、土地の人阿部氏の祖、此樂を奏せしに始まる。名つけて吉士舞と云ふ。以来阿部氏は代々此行事にあづかれり。天平六年三月聖武天皇難波宮に行幸ありしときにも、摂津職吉士部の舞を奏すとあり、貞觀元年十一月豊樂殿に吉士舞の事あり、実に千有余年の歴史を有せり。爾來時と共に変遷して中古に至り、神宮寺（今の住吉の北方にあり）より毎歲此踊を出すに至る。蓋し天下泰平、五穀成就、庶民の繁榮を祈願せるに由来す。僧形にして僧服なる所以なり。中頃に至り、住吉社より此踊を諸国に巡歴せしめ、住吉代参の供物を集めしめし事あり、これよりいつか世に住吉踊として知らるゝに至る。かくて、毎歲住吉神祭の名物行事たりしが、可惜明治初年此事遂に中絶せり。故に今の人其名を聞くも其實を知らざるなり。余浪華に住ふ久しく、聊か敬神報国の微不禁、曩に同志を集めて、伊勢神宮参拝団、樂正会を興せしが、夙に同志と計りて、此踊を復興し、一つは以て我國民性の、上下一致醇朴上に仕へ、喜悲神に奉して、祖宗を敬ふの良風美俗を興し、一つは以て浪華の一名物を、永く後世に伝へんと欲す、これを住吉の宮司に計り、大に賞賛を博せり。即ち同志多大の苦心によりて、全く煙滅せる此踊の手振り、音頭、衣装等漸く探求する事を得たり。思ふに住吉踊の起原は、神功皇后の凱旋に始まるも、其變遷は、古書に依るもの、区々にして分明ならず、たゞ其衣装の僧服なるは、神宮寺より出でしものにして、天地五行に形どりて、五色の彩色を用ひ傘は即ち仏法の所謂天蓋にして天か下に住ふ我人は、心を本とするを意味し踊りの手振りも、四人を合して心の字に踊るなり。中心の音頭一人を加へて、必となる、頗る意味深長なるものあり。加ふるに、音頭のイヤホエの掛声は、即ち陰陽穂栄を崩せしものにて、団扇を手にするは、以て稲虫を払ふを意味す。現今此踊の形を残せし麦稈細工住吉踊りも、麦稈を心の文字に結び之れに五色の衣を着せしものなり。かくて大正十年五月初て此踊を住吉の社頭に復興する事を得たるは独り本会の喜びとするに止まらず又以て古への歴史を永く後世に伝ふるを喜ぶものなり。今大正十一年三月廿八日畏くも 今上天皇御惱御平癒御祈願の爲め、皇后陛下親しく九州箱崎の宮に、御参拝の御帰途、当住吉神社にも御参拝あらせられしに当り、特に此踊を台覧に供し奉る。実にや神功の古事にも比ひつべく、誠に有終の慶事と申すべきなり。謹みて復興の由来を誌す。

大正十一年四月

樂正会々長 扇野菊松



大阪楽正会による住吉踊（反橋の上） 昭和初期

〔古代〕

吉志舞（神功皇后）

〔中世〕

⇐ 田楽（御田植神事）

⇐ 虫追（虫払の儀）

⇐ 神宮寺・勧進僧

〔近世〕

住吉踊

風流踊 念仏踊 大道芸

諸国の住吉踊へ

〔近代〕

<神仏分離>

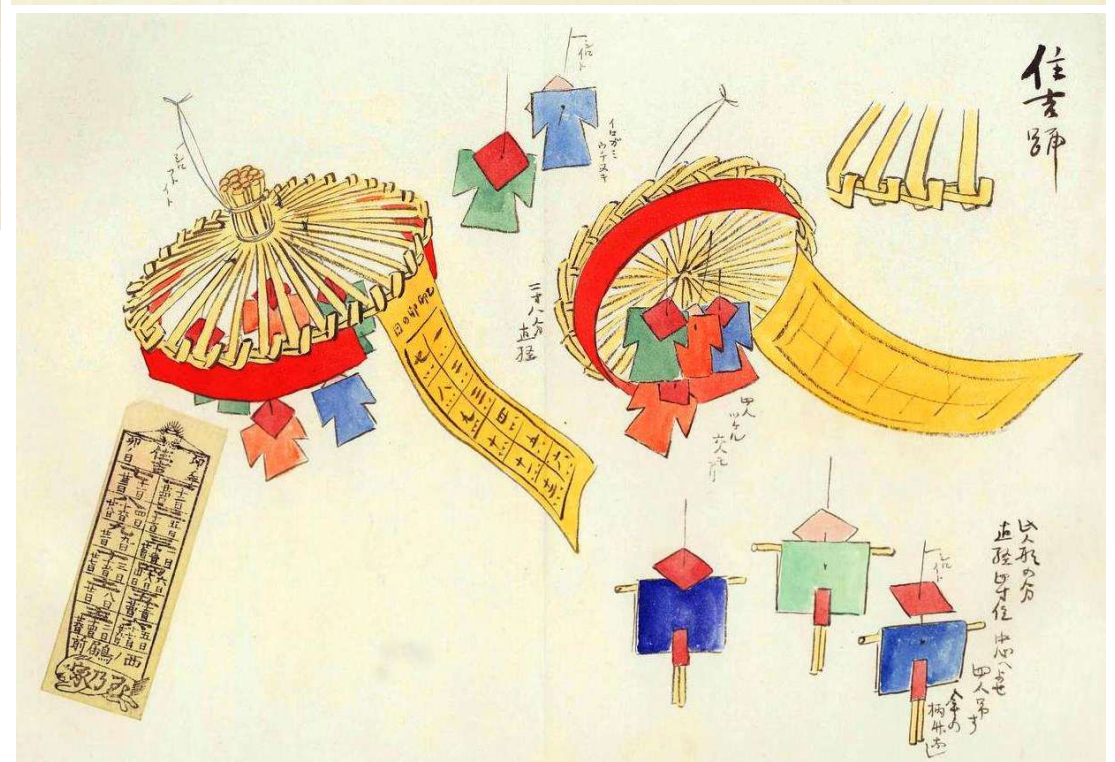
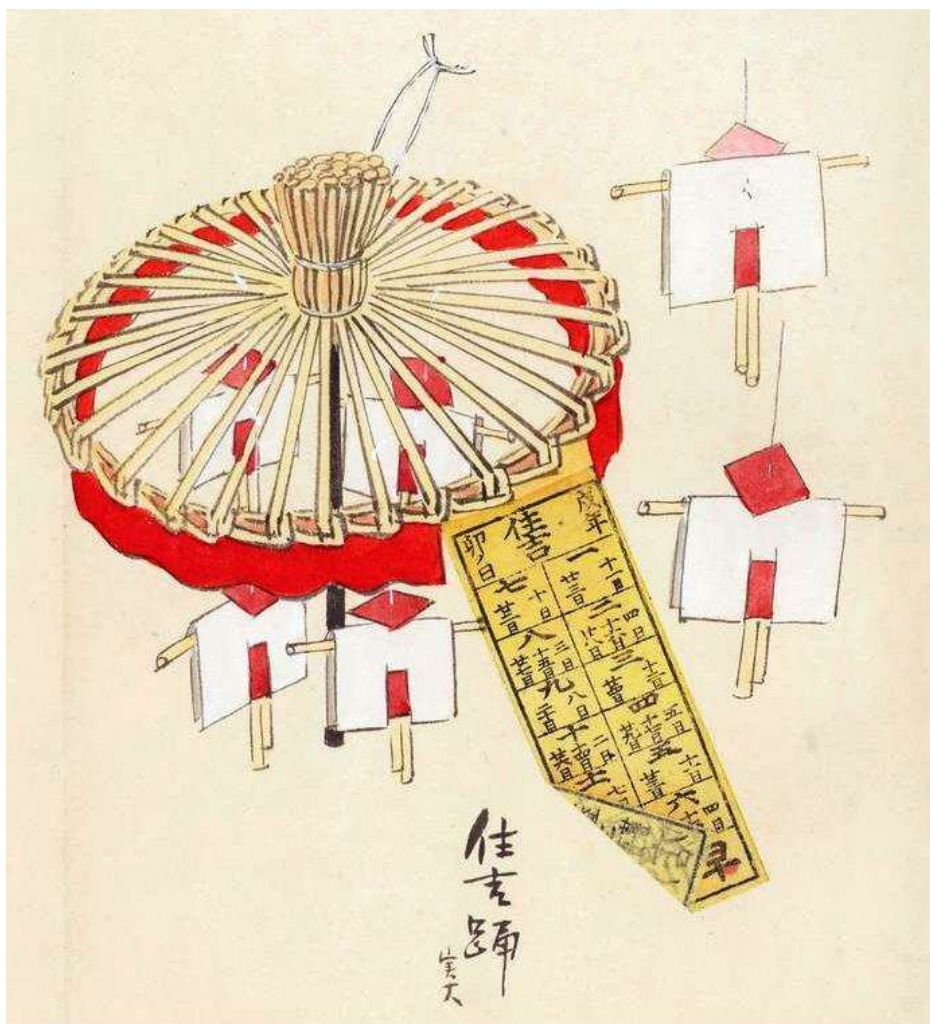
⇐ 大阪楽正会

⇐ 住吉会

〔現代〕

現・住吉踊（住吉踊保存後援会）





中之島図書館人形洞文庫

川崎巨泉画『巨泉玩具帖』より



住吉踊と製作者の松谷吉彦氏(住吉区在住)

最後に、

全国に伝播した住吉踊





和歌山県田辺市長野

長野八幡神社住吉踊（ながのはちまんじんじゃ・すみよしおどり）

和歌山県指定無形民俗文化財



愛知県一宮市今伊勢町宮後

宮後住吉踊 (みやうしろ・すみよしおどり)

愛知県一宮市指定無形民俗文化財



東京都

江戸芸かつぽれ （江戸住吉踊）